總角物語

前編 下

208
4
698

国立国会図書館　　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

總角物語前編下卷

種彦著

四　あけがらを

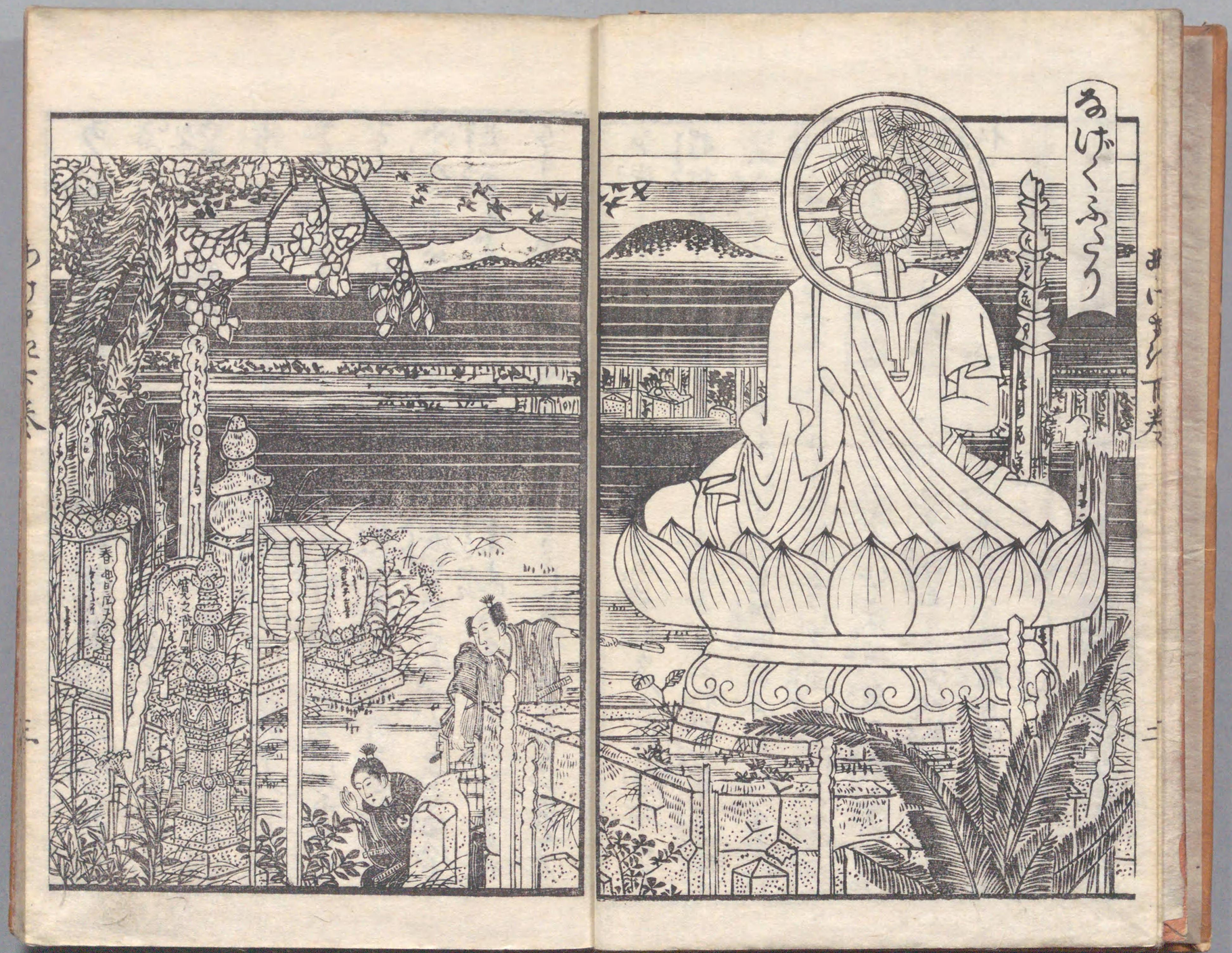
さてもかの平助六ふる。さらふ瀧次がまのび半〳〵をきつぞ。瀧次半ふあらび。関やくまさうあふいで。雨戸のあれあり〳〵をいぶり。瀧次ようが以戸を半面ふ。以具むるしくきのくへあ〳〵ぞ。只助六ふ三人がえんる。東弥左が位牌を。机上ふのやと上ゆふるは。彩深一わんるふ。ふあるのくく。ふるるをのてふあ〳〵ぞとふかどうん。助六ふ平をうびあとし如此この

う物ぐるんぐ。二人い周章まどひ。をちこちをうけめぐり。やあ
うるれふあうびりれど。的ろる矢をまるつがざく。いう尋あるべ
うもおぼえず。夜あけてのち又異形を搜えんと。むなしく皈さ
路ふありしくあり。偶林鐘寺の門あふて脇六が且夕ゆきし硯
おとの蓋をひろひうり。急ぎ堂守りのすを道公をとうべかこ。
若ある人い素うざるやと向ふた公振れれる声して。答うう
人いおろうおぶも門内へいる者いるうしが。當寺いえうる
ぐく空寺とうう。ワれくぐれ三四人のた公あるのこなれば。
尚れる汝の間うう馬をいるくもも公ゆとし。先三昧堂のさ

を齋ーーーのひね。おぐわのぐーれふ芝ぶのうと。ゆれゆぐるる
提灯をさーーぶひ。ゆ平一れーとるゆふとうえれが。三界万霊と
いふ文字ちるーあう。若衆ひう君も此霊のうちふいうるるで
何とやんと公ふうれどさーねあるらして。回廊ゆしる本堂
の礎をうるひ。卵塔のうるうあゆくふ。狐鬼の巣あるぐれ。
石碑も右うるふうれ。左るるい斜ふうるれ。荊棘薜蘿石
仏の蓮坐ふゆるひ。鳥の糞樹ふちう。蝙蝠ののさーーく鳴
ぐう。秋木の玉珠。雪柳宝蓋の織くうぐれうぐ。地上ふ満る
ゆくふ紛ひ華の実をむるび。曼朱沙花ゆりしうふ人軒

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用



国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

あり。胸わさらん迎づれえれぐこれ激ひふぶ亡骸く。助六あいて
いぶれかち。おいはとしてうるぐれ。ひと甲夜ろうのあり人ある
は顔色とも膳度もーぶ。かく山自害あんとも。紗ろうね身の努
ちらぐど。とあもつやねらやしさ。行ホ仏細やりれやんざとど。
やあて一言さるてあうと告めろ。又修そぐもあるぐれわとホ児
てく降さんぶ。当平も話共ホ逃歎の涙ホ眼もあきえぐとも
ホ死べくかりひしーぶ。中あうて涙とかさあ。さるわとも激ひふ
君ぶもぐうをとう出のへば。ロ書きあるべーと。目をぐあて
ちゃゆうホえるホ。果ーて口ホうくしのとそあうぐれうん

わうと助六ホりうを。助六とうあげうくもち平公づれーと。漬とも
おどうれ。ろうくーてい泣れ。やよ当平四ホ泣ーし兄人ホもちや
此世ホハわうちへぐ。昨日ヤでも今日ヤでも。兄弟三人ホあうつ
るのを。一日二日のそのうらホ幸ろくーりれのこ泣ぶり。行楽こ
ホ世を抑ぐれと。激ひふぐ亡骸とあうぐどし。ヲもうくぐうり
泣ホりう。当平ハ抑れのぐく。ちハ行と当ふぐ。四兄弟行ぐ
君ホも。非業の死をとぐのひーや。ちハ行人の為業ぐや。ちうく
あとを漬ぐ人。雲のうう海のそとぐどうねぐう。その仇人と
索ぐ。骨とひーぐ。片をとされても。怪をさるうんとつれやき

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698
ガラス使用

あくとひつもる。助六ハ涙をおさへ又書かれをうけらぶ。
ゆ時あれて言葉も出ず。いんやん半平兄弟ハ
仇人とつい思切腹なされ。此兄人こ乃手かれをうけえれば。
あやまれ暗の人ぶんふて。兄ハ弟のふかうを知ハきふひ
さらるーと自害して死亡のよいつるる伯世の報ぞと滝ゆ
涙聘をつゝひ。おさゆ神も打ぶ泣叫ぶ半平も言葉ふ
ゆく。激しくが死敵ふうまぶり。昨日房州へうぶのひ
ーとれ。平生るゝねけいひと夫婦めうともをつひふ其
うひもなう。おさはきゝあうさまとつひつ。死ぶいおちるふやさ

口のうらふ一書あり。取上れば秘中の秘と記あり。ふ公ぶと助六
ふ波そ。助六墳又て緑林の殺客遠くに尋るふ尋ぶ。おそるべしくと
いふ。平其言ぞを沉り。様故をとんど。助六言もるぶ。激しが死ぶ
いとあうへうし。忽ち一堤の野墓をぶ南ふあぶ
つと出仕して。法ゝ家路ふうつ。助六半ふひうふけれ
ふとあれば汝れうう房州へ旅ぶら関やが妹あや激をうく
迎へ来ゝとゆえれば半とのうふちぶれど。作うとふ
と房州へそありしれうう。関やわぶ敷れもおなじものふて。
ぶゝーれぶちるさぶ。あうじめ膳度まぶれふさとかれ伊

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698
ガラス使用

吹久國別号意休い。公のきくゐ好討ありて。若狭をとり潮ひ
ゐ殺害さも。彼ゐも在京をとり若をおゐはせ。なれのみやんでゐ
ひしゐ。潮ひ乃ゐ計ゐ公づん。辛してその場をさうねけ逃去
しゐ。兄と殺せ一大罪あれば。自害やんい必定せうと。いざと遠
くい逃ゐど。いろいろうてるーと早舟をとまうゐ追づけ。さま
ざまゐ口説ども。ゐ心ねさうゐ美門ど。さーも好智ゐうゐ表
体をう情のうちい公ゐやうやび。又一夕南寺門平ゐと酒宴と
のいけ。計とう品を異ゐーとやゐと口説れば。ゐうね眼中
ゐ涙とうくうといひるい。先腹を裂ゐう君横死なしまひて

うう。面ゐ白粉をわどさび。唇ゐ紅を彩らん。数いけまべ一ト
まづとりそつうね。魚ざもるめぬ妾ゐ身のつーしかそれあ
るとなれど。先腹を良人ともろひ仇れば。君い此身をあづるひ
るひー思人なれど。さんゐゆえ仇ゐさんワんが如そなりんが。
仲父君もひとりの身とりて。かくのなねとを宮ゐい行業ゐ
がいをる根なーざるうゐ。うー仲父君ゐゐんゐもせ。女の
二夫ゐ中ゆるを。武士の身ゐうらぶれが。敵の門ゐ弓弦とや
をゐ。主ゐ向て矢を裁とめそひとをと。眉ざりひんあ
ひ。ぐゆゐいひのづれば。考さう怒。乳ひうからう。佩刀を

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698
ガラス使用

ろうとわれてさるら。早あが目さえへつれぼけ。やゝ女強けが
てびをとびむとあら。汝が良人芳根あるがそをわる。冥途黄
泉といふ別館ゆうりやうん。いのらかしくべ色あるいゝとく
あるもと。力の背ゆてあるるが腮をわらげ。ゆめとゆれが忽ち
多緑の幽宮とへんじ。寒冷ゆるべんが。強や凌兢や殺も。活も
さび一力のうちゆあうと。さやぐゆやあさいるわど早あいさび
眼をとらぢて。そつうゆ唇のうどやくい。公のうちゆ弥陀の唱名な
やびうるべし。亥体ゆゆえをいうら。門平ゆ命じて。早ゆを様
さえの移ゆ高手小手ゆあぢりあげ。活しもやゝぞ。殺しもゆう

ぞ苦痛をさせて脇力んと。中力の小柄をわれとう。右の脇ゆつ
にさうれば。おゆね叫んで眼をえひうにのう情るや言ふうぎ。
沢在従子の書さるいゝゆ。怨想やきへ道ゆゝわゆ。かゝる苦患
をうけさるゆ鬼ゝ悪魔うゆそうしゃゆいゝぞく黄泉とゆう
んゆ。芳根ゆゝ君もかをとるう。やゝ妾をうしてゝび半
坐をとけけし蓮茶ゆ。二人ゆるのが楽ぞと。刃をゆるして泣叫ぶ。
言ゆさうあゆをとさと眼ゝさやぐむゆやゝえ芳根ゆゝゆ極
深ゆて逢もやんと殺しもやゝび苦痛さひるが。あれゆても。ゆゆ従
ぐいじやと又削力を肩の岩ゝゆつえゝうれば。白書も鮮血流て

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

紅ゐんじ。あくと叫んでやうくいのちも絶ゑんとす。言体微笑しく
あくゐくやこれを酒菜ゐいま一盃のむべくと。左ゐ盃をさくさし。
右ゐ刀をとりあげ一人ごちていま夫花ハ未開ざるゐ紅あり。酒を
微醉ゐ奥あくと。あやうゐ醉されて床こうもし。此小柳ゐいま
十柳のまびられるどゐ砕べれが。いゐゐ門平けば敷ろうのくれむれを
ゐくと。一柳香ぐゐ指をきりかとし。あくと叫ぶを驚
ゐておくゐ。又一柳香りと名指を切かとび。二本のゆび
うりなぐくく血ハ紅のいとのごく。さもも苦しげゐうくさま叫喚大
叫喚衆合黒繩等活の地獄の嘖ハいざまらび。彼血盆の刑罪も今

あのやんゐるでしうるあう侍女あや泣ハゐるゐ苦しむ声
を少つけをとくと尋ねば。此光景をゐるうも言きうぶゐ
ゐまぶうれどもいるる殺ありて。ゐあさやをゐ柳や先
妾ゐ故根を告のくと。二人が中ゐ立へぶる。言きうあや泣ぶ背
うちゐうでさうれ女子ゐきゐへ走くしどけ。けば波計のくれとゐ已
波。活のれていくゐ公ゐうれども。今ばうハ助けられん先られを拒
べくと削刀を投出やべ。あやセりびくくゐ削刀をゐゐうあげ。
どりていくるくるをゐしゐくと叫ひれが言きうゐあゐをゆび
さくれ逃刑くう削刀ばうをくそくど。あうゐあゐまぶくれ女め

ゆえに。僕をつれてゆけ。幸汝はかれがうつ。彼が憂めうたをべしべしあり
ふあや。漁に所きこえて。さん行と宣ふぞ。日頃中うれおもひさまふ。
削刀ばうをとそうとや。その変ばうはゆるさもの人と。削刀をあ
きて。そのまま。倒れ彼がうつ。云体あや。漁が目さえつかをつれ
つけ。それがうはいさや。早舟を背ばしめふ。嘆ぶに汝を切殺さん
ぶうふくとあや。漁が細ぶに拵んでおるぶ。似ふつれ申う
ね。綾さいやんうさるくふ。削刀をあふうとうあげいみまあ
うれど。主もひうしれその人ふ。うぶうう疵のうけうるぶれと。涙ふむ
やんでうかへをべ。言さう白刃を身ぢくつれつけ。今ふも切べ

れあうさまこ。早うる背しに息をつれ。あや漁ばの行うゆうふをい
うぶや。削刀をけば身ふそ。仇身の親義をのれてうぶなのの
とあううめ。けうが食いかうビ。此うの情ふいい咲とやんを
うに切て。背痛さもわば悪悪うるぞ。これふを合をて縛んふも。
縄あふうれ。ふまうやぞ。さや死さやうく殺してられよとて。
雨くと泣やぶふ。あや漁も涙ふ目もうられて。いぶやんぞあのひしが。
けばふ脇ふつれうて。早舟が身ふ鮮血をきぶ。こぐうしうを
えうれば言さうといふる猛虎あり。前ふ毒蛇のそれあうぶ。
うくわぶふうゆれ。知死行をいそぐ。削刀ばうは月日の亂ふ

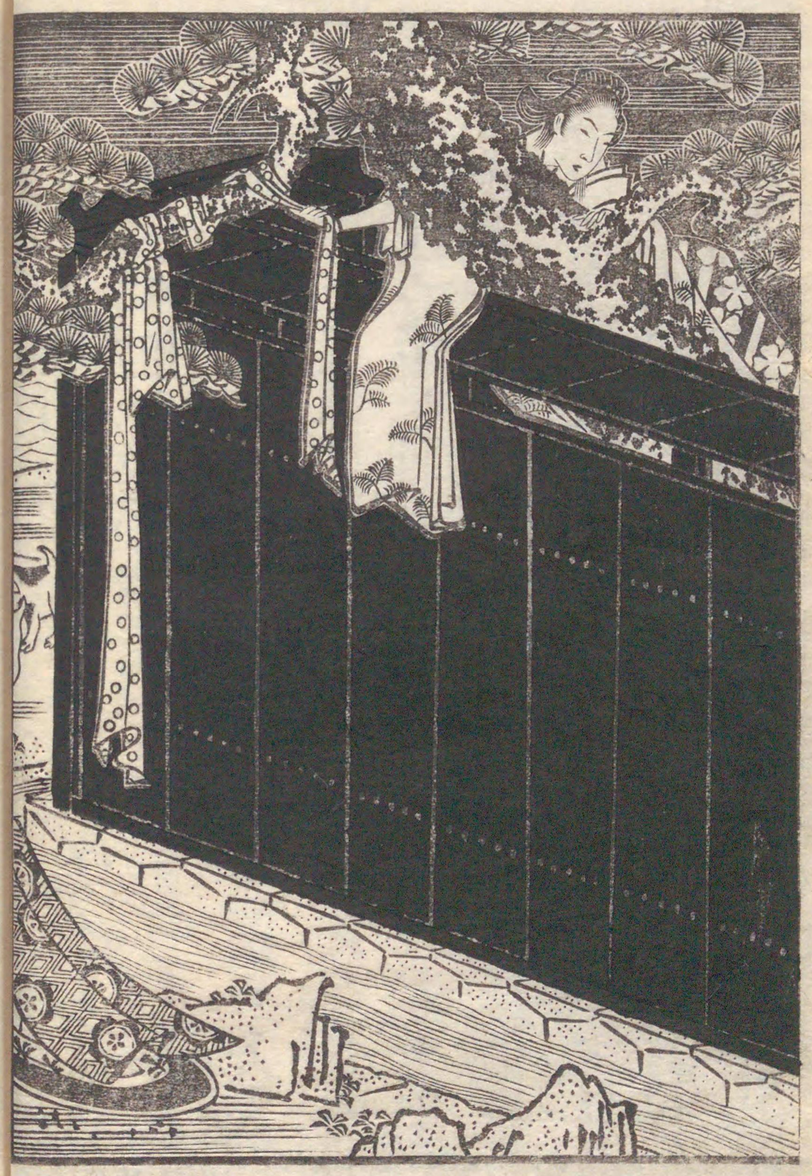
国立国会図書館　総角物語 2編 208-698
ガラス使用

ちるまでび。此とれ言ちうの門平い先ちうの乱酒ふ酔ちれ足を千
文字ふちちちび。雷のごれ鰍して。ちあひるくねちうれが綾
激ひちうふ弄び。先いまーあひれわどき。ふ角ふさふれるへ門
平言体ゞ砕ちーるちを牽ちれちぶていうんい全盗ちざこの
梨をちうび。きんと。けじしく小づまひれあげ。堀ゞーの松ふちう
て。かのれゞ前をちもをふもを堀ふのを早角ゞ膳ちびを上ちを
ちをから。ちぶと堀ふ系ちる。ちや舟ちやくも外のるふと
びらぶれべあや激もちうふちるんとやーゞ裳風ふひるゞへちび。ねの
小枝ふひれちう。腔あちるをあちんとなし。ねの梢をちどう

やび。青ふちうる材ふの三ちや羊ふ毛ふ球ちりん。ちちくしと奉
ちうて。梅先ふ臥居ちる門平ゞ面ふちう。偶目光てあや激ゞ堀
をのうちゆるをえつけ。ちふかどちれ。ちやちどけしかびをちうて引
ちうー。言ちきうをゆりかちー。如代ちこのちうー告ちれべ言体大ふ
怒ち。甚奴早ふもゞかちうとしちうとの梅へちるべーかちれめえや
てちきんぎこいれちちきて罵るふ。門平ゞごとちけちひ家長の
令ふふへど。二人ちも酔奥のちうへちれべかくみねるき噴をなし。
ちうめゞさんもちちうがてー牽わどちれ岩戸川へちゞこ。
溺死さちくく腹ふのへとあちとむべー鶯の小多をちうむごてく。

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用



国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

あや徳を肩ぬひてうげ。岩戸門ふくけうゆえ。ここのあふあり。
さても彼小女を水の底へるげこしげ。深ね況ぬろげくさよ。又
ひちうしうんど告るあろふ。さや晩ちうりう。其のち言保
い。首級あうぐ横死のあの山人。徳ひうげ勘氏の男をたびかうび。
當国へ足どいれしうんど。己のく狂あうげふ美実公へ言上
なし。備弁をあうて。遂ぬ求上の一斉領をけげのとみしるこ
と不敵。さて当平い疲を日ふついで。三体ゲ銀ふかりむけ
るぶ。ちやあや徳い邪業の兆をとげし次日ちんが。いうふとも
やんちべうく。ちふ当平をううんうべ。兄殺しの徳ひうげ行方知る

べーなど。それ彼いひのちうんを少生ー當国ふ長居ちべいうるる
凶支出未べんもちううざしと下総国へちちうつう。ちのは助六
ちづあ女房関や毋杭ぢみも物ぐうりれが。三人ゲ殺れいうへ
くもうく。徳を縛ぶてあや徳ゲうるれあとれめどうふ吊ひられ
ううも助六い責体ゲ好計うるさをちうちう時のいうるを
やちふうう。此下三年ゲ間物ちうう

五

花山之光景

当平助六ふハやん巫の里ふも徒憂うりん武蔵国花川戸と
いふ所ふト居ー女房関巫毋杭差めううふ抜ちるを土ふて作

童うらみあそびみ賣て。ちとを治計とやーみるる。いやみいうて
彼地の土人つち細工をなる者のあり。又武平太負を好て多く
極るゞ年毎秋みいくう。当平う住居の地根を遠方うう生む
こゝい。恰も蒲鰒のもぶれをかけるゞじ。されば時の人彼と異
名して。朝負当平といつりる。かくて日つる弱の足とやもあ
ぞ。三年い月の間みぞもゞゆきぬ。当平一日清水村といふ所
ふ依用ありてかゆもれ。偶助六が仲又言体當四武蔵ふ来りし
を少出しものゝ助六ふ告られば助六斜ふ来べ。いとくふ房
州へかゆもれ。仲又の胸中さぞうるんとかりひしゞ。あゝるゞ洪

智ある言体るれば。つゝてかとゞ謀計のあゝみるもきるべゝゞど。
今日ゞでい延引ゞう。彼當地みいるる支られ天のゝゝけゝ。畢竟宗
剣の紛失も言きゝうゞ為業とかりわんゞ。いゝみもーと彼ふ出会。よ
ゝるゞう貪義ゞんと。次日ゝう当平い鞘を墨みてつゝう傭奴
のさゞをゝし。助六もいと風流みゞゞう。宜竹ゞ作の天ハと腦
みさー。二ツ下籠一ツゞん。もゝさられのゝちゞんと髪さられみ結び
きゞゞ。大略横ーと六法うゝてあゞゝゞゆくみ。彼いまゞ近曽ゞうゞ
をゝうひて。若年風流士るれば。往来の老若うゝえざるいゝう
ゝゝう。いゝゞ此頃い武蔵坊の草いゝゝるれゝしるれば宮ゞの

森うう浅草寺の境内よりで。千本の桜あり。さるこの頃は遠近の花客
つどひ来り。宮戸川は舟もてんさうぐつ川の面は水もうんがぢ。三
服の月の森もこれはいまさるべうもおぼえず。助六平をつぐる
ひ日毎かとの花とうぐつ今日も又つねのごく丹ちまぐるは
出くうう。暮ちんまぐうぐれどぐれど。ととかりうんはがうもけ
れがとある茶亭はゆくうひて。助六つくりかりぐれさぐ一年
へ一時は二人の兄とちひ仇くいとと。ちうぐう。仲兄といふ名は
討もうぐび。嗚呼いづ二の日う宝剣の食義ぐうぐし。家名を貴を
ねあうんとすぐうかくをありひ出。ちうはあれりうねセが川うゼ

てげしく吹来り。花包うぐう落ちはい走少不定も目前みてうる美は
とうう伸はい盛者必衰の理あり。花は飽きて玄の日はうつう路
いくぐ入れい舎者定離くやひぐくらじと。かるる徐もいてぐうは身の
憂のくりひ出るありしも夫は初てうく家は群ある女連あり。ちい
柳町とういる妓楼の妓女ちれど。花ちる一日いつるの妓女とはね
び一枝のわう笠ちて。そとよ友うと媚きあうくその中はいれ
てやぐうん。形たうつがかぐう深は。むくう唐子の下紐をうくねはる
むくびのかびちぐけうく。茶の錘帽子のくいぐしい。数を慢ド
てうくん是則三浦屋の總角といふ妓女。對の禿は幸行徐れ

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698
ガラス使用

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

絃のこゑこがんとのこゝを。ゆく〳〵酒ふ醉まれうとえん。雑妓の肩ふを
をうけ。裾うのうて傍徨さよ。ふうの妓女ふこゝろぶれば。塵の鬱のみ
うふこゝろるぶで。先ふ床れふやもうひ居うる妓女声をひこゝ〳〵
なし。紙角ぬしつぶちみて竹美をぐ〳〵のひねと凡ひりれば紙角
うち笑〳〵。行地みて紙のしと。あゝこゝうこゝる凡ぐふて面ふを
ぢをつぶれ行る。ゆくうこゝぬ花のさうう。一巨二巨の数こゝねうし
ういうふ云れども。紙硯本性こぶうぐと。皆さゆのあと考こし。涙
これゆで考う行ると。こゝふ〳〵とあゆゆうぐふ。裳ひるぐつて梱麝
とちこし。ゆうさをもうと肋六が体ふこる。凡ぐ床机ふ腰うこうけぬ。

肋六もを刺こう。彼ぐ紅顔緑奚こるふ精神ゆこうひ心肝こぐけ
るんかりひるるふゆて今月ぢ〳〵考〳〵こるをえてひこれゆけど大
夏をこゝえ〜ワぐ月をかつこ。こうふや生んとさこゝぬこるゆこ泳
居こう。雑妓ども行ゆん紙角ふさゆれ今日の花見れ花のこう
るむあうてさど云れこうんふ。りのかりこれ出けいいこをひ
わなどいひれど。一切答もるこぐ。只相管のまいこうふ右指を
つけて額ふあて酒醉ふ胸苦れるうこるれば肋六側の妓女を
こうび。えゆのこゝまればあのぬ〜ゆく。酒ふ醉ゆ上といぐ〜りれ幸
ひ砕をさゆゆる菜をこうぐこるこ。かぐいゆこうゆんと。こぐ袖

ゐ梅の花を時綺しるる下竜をりしるさんべ百年の後ある医師此業法を沼と。酔客の為ゐ製し。助六が下ろうゐ因て。神乃梅と名づけるとゐ人徳角い彼らを沼そろゐ弄び。茶ろん

ゐうろ一杯をろう。うゐ粥と助六ゐ入し。すると女童ゐ私語さゐる帛包を助ちが袱のうちゐいれさせられど。助六いろうてそを知らぞ。ゐ平い又うるまゐ助ちと長居さをゐが家狸を

て杉魚をやろまるゐ仍ろうと側ろう飯路をとろむ。助六も床机をろち。先稲荷ゐ糸治ゐし。そのちうろうと。宮戸の森。望てゆれゐ。あやろの妓女徳角が側ゐ赤り。今日い日頃ろの

袁人ゐあひゐひさぞゐ姉しくあがるそろん。ゐぜゐうをろがう言だ。ゐてもろうしゐろうしゐ。偽ゐるがあわそゐどうろうろひーとひられば徳角良さと赤うるし。生強がろたるてぶゐて。ゐのろけをいひ

出ろうが社ちろね女子とりひうろんとさんがりして。人ちがろ

づさをやろうをせろれが色ある返簡ある中ゐで。阿仏とろの

ろやあろちん。茶ろゐるが老板板のちろろん。先賽といくぐ

べーと。足りとかろうろち出ろう。そやゐ寺ぐの晩鐘告ひろて花

えの雑未もろがんられが。茶亭の老婆い床机ろんどろうをせ

ろるのう。ゐ時此ろ又うろえと。野郎笠を差ろるゐ。茶亭ゐかを

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

らふ侍あり。こは伝ふの者なれば則三名体へ白雀者両寺門平ゐ
語ていはく。汝はれゐおらとて當地ゐ来れゐ詳の支い初るまじ
るとど。迫曽百斗三浦屋の妓持ゐ登り。總角といふ妓女を
ろるゐ先年ゐとりけ。あつゐ。ふゐ。ぶ。ぶ。ぶ。彼女ろう
わやと炉りわりへど。十本の指不具ろうざれゐ。実の子ゐねゐい
あるぞ。その夜總角を酒縁ゐうびなん情のちびかりせども。
縋面さん早舟ゐや仏つんひくとわゐ公ゐ来ざへぞ仕他ゐ
らひを賣妓女ろびゐ金と多ゐまれちさび彼方ろうきさひ
ろんと夫ろう夜ど三浦屋ゐかろひ。多分の金をとしるひ。今

自憂中空しく幸ひけゐ佩しる両腸い先年汝ゐ盗ろうる蛇形丸
の宝剣へけと強此宝剣を望ゐあるぞ。彼兄弟を罪をへん計
るれべけゐ炸ゐあつて詮なし。何卒此宝剣を人ちるぞ賣代ば。
金をけゐ計束いあるゆるれやと。潜ゐ物語ふあり。側ろうその宝
剣けれゐゆるりゆへとふ者あり。ろうろう外ゐ人ろれとのろひ。
かる密夏をろうしゐ。側ゐ人あるをろてたゐおるれ。その人ち
熟ろるゐ身ゐ裡持をゆしひ。彼げる個賣翁へ門平ろく
とおけひ。汝知るぞや蛇形丸といふ。往昔三条の小鍛治ゐ
ろうる所の根故ある宝剣へをど買ける金ありやとかろう

ゐ置るを。彼翁耳ゐもふれぞ。懐中うろ百両の金をうつで。素体ゐ
對ひ小子ゑの宮剣をゆゝ用るを文あれば二腰のうちいづれも
やる一刀ろうつてくしのくといふゐ言をうひをゐ弄び中刀のを見
ゐとゞめ一刀を翁ゐうくしぬ門平言体ゐ彩徐若彼翁ゐ平
ゐ紀類るゝゞゆきれた支をひれ生をべゝとそゞめしと云体
うちいくひをのゐいゐ又計東もあるべゝと茶亭の床机を生生
りれゞ翁もうをゝゞゐ若をうくゞ白酒ゆやくゝとゆゞ行ろ。
此翁ハ當國芝浦村ゐ住ず士浪と称て白酒うを彼ゞゐゐ善
ありや。悪ありや。さん後編ゐ詳ゝ。ゐとはいさてゐ以助太平平両

人ハ宮戸の森の稲荷ゐゐふゞを切ゐ体ひる茶亭のゆ人を
過うくゞ。忽ち両人の武士ゞ憩ひゐるをえ生目をとゞやそう
ゞふゐ一人ハ目岡ゞさゐ面いりれゞくけとど。一人ハおさゝ剣寺
門平ゐ似ゝう。ひをゐふうをゝゞ両人の武人ゞうち生ゐるゝしろ
ゐゆう。今体ゐる武士ハ。何地のゝ人ゐやと茶やの老婆ゐをひ
りれゞ走ゐいくてりとハ遊曽耳うゝて。詳の文ハ少え
ゞれど。今目岡ゞさゐる武士ハ遊切ゐ君うちと問ゞくりゞ
茶屋ゐ酬ゝる。三浦やの徳角ゞ邑香ゐやゝひ。疾ゞゐふゝふる
しと。今一人の武士ゐふゝうゝるのゝゆゝうとひりれゞ助太

莞爾とあるを。いろは屋平兵衛なるとまさそあり。ぞよ稲荷を拜せ
られ。ふみ口ぶ袂をいつくられば。ゆくゆる帛色あり。俤うつひくん
るふ。されの總角とやん妓女が。口ぶ許へかようる魚あるなり。
大望のさまをげとゆぶりをそんとゆりひぐ。暗ふふぐうの一つと
をとうりれいをうこ浦やふいをうん召汝い一先口ぶ家ふくん
う。一伍一什を杉善関屋ふうそのうあとうう追つ込まる
べーと雪平ふうちりうと。杉泉通うと南へいくぐふ程なく
花街ふいうりれば。竹橋ふ金屋風をとうをひる妓楼。
所やれさで立づれ。その中ふうしと三浦やといふ女肆あり。

これをうんと楼上ふ登り總角をうびもくれば。總角ハ加六と見
うをうも。胸をぐくやでうれーくりくどさーねりうふてゆきぐ
ふ出。酒蕎ふ時をどうーりる。さや三更のうをひふ。ねーよの時
を告げうう。ゆきぐれのくい例くふそべう出。側ふ人をりれが。あげ
やれ加六が引ぢく表り。過刻ふい總彼体のひうく書をうを
づさとやつーゼ。結ふをひとのづんとをれば。ぱー言ぞのかをうて。
さぐをの續うくかりうん。今宵ふ意あひやうをうハ圓通善薩
のひくあいせをふうをうと。亟ふあぐーをうをねうひとうをういで。
總角うをれと加六ふとびりうん。君をのぐく紫の鬚帽を結び

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

うへが。往来のへひとりとして君を知らざる者なし。そもつるるいれおろやといふ。助六声をひそめて。此髪帽子不審まで。詳ふるうちわ〜ちん。又此一度ふつてるのこゝろに仔細あり。われ先年房州のゆくへふて。主君ようあづかり給ふ。此形丸と云宝剣を失ひ。刎ずでは済り首も斬らるべき。是惜あり。しかるにやつの罪をゆるしまし。剣のゆんざ為さば本領安堵するべしとて。御墨付を。義実公ようらざ〜かうと。しゆん君恩のうるおひけれども。少時が程もいとまと。則ろの御墨付と。濃紫の手帽ふつく。此ぢく髪帽とうもしの君恩を頭ふらるゝ。ひとと物ぐれが。總角おひさきて。その宝剣の変ふつゝ。君の仲父君。言ようと。いつる人とゝぐねふ。ふるうちといふ。助六おかどうゝ。主仲父言体様が詳ふ通つるとしいやーどう。おのれが口ようり已が悪事とうゝ出べゝ若もね。そふも又ふゝ様故あんと思ひりれが。總角おひ知いぐ〜君の反行助六主ふてけるゝせらるれが。別ふあいせようる者あり。おうしてのう言ようも。今宵此柿ふあれば。おろく計べーとふと。ようて彼要の度変ふ伴ひる。只ゝ何ふ人ふあいせ。行ふ計東とかとうのふや。硯水ようて行則説話体舌。此年いとれ嘉吉

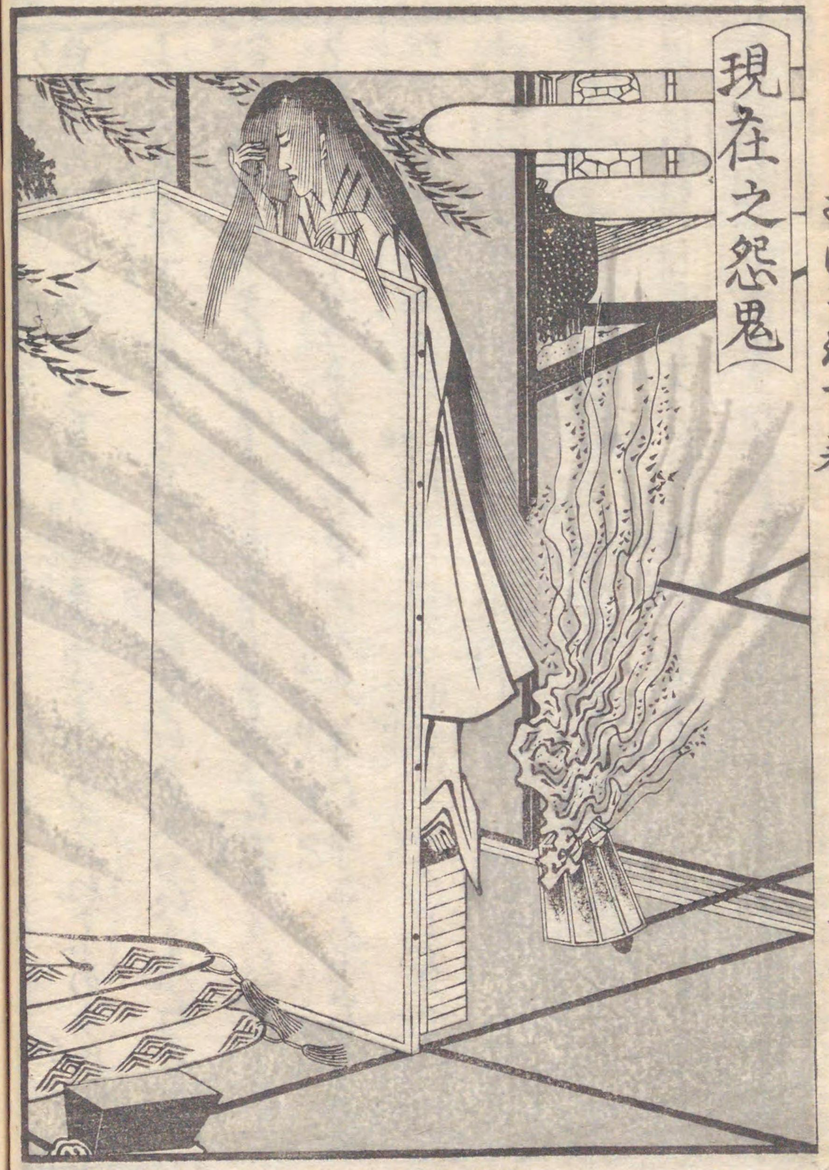
国立国会図書館　総角物語 2編 208-698
ガラス使用

二年春二月某日のうりを

六　たるのよ

此夜言伝も三浦やの婦ふあるて。只管總角が公ふきてうへざるを怒り。ことこゝろとて金を多ふきれちゝやび。雜戸幇間が詐謀嘯唄のうましさも。漸夜明りて雨さん蕭々とうち出るれが春ふも似ぬる風の音。梢をゆるがして物寂〻。おやしんべゝうり声絮とさゆらとひゝく。白小神ちゝひうる女〻わゝと言さうが枕方ふあゆゝうり。怖や無常の風もやさどしと。あゝとさゝとする化粧のあぐゝ此月をとゝれとやあるふ。ひとゝ汝が毒ふふかちゝり。

悪魚の餌とあうたてゝうる。霊竜ゝびあゝれ〻ふ抜ゝ〻。汝も泉下の鬼とあうさんと。怨念うげ月ふつれたひれとゞ宿剣の威徒ふかをれ。ちゝゝるさもゝゝふくびゝと犬ある髪をゝふふゝゝゝ。ぎつくゝと立ゝる面をゝんとゝび。先年門平ふ命。岩戸門へ呪ふかけゝ。侍女あや御ん言さうう悍然と出かどうれ又八袋ふ仕込ゝる短刀をゝれたゝるゝ。切ゝうんとゝゝるをゝあや御月を内ゝとおどり出。ちゝと笑ひをきのび。助六總角が待ゝる空ちゝれふゝゝる。とれ実の怨鬼ふあゝび。あやゝん緑故あゝて。此三浦やふゝゝされ。ゝん白玉とゝふ妓女ん。助ゝあや



国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

潔ふ對ひ。退刎ゆへ公ヒくまく仔細を妙さるさびの角ハ房州ふて非命の死をとげるとのくちひろるがそもいろる縁故あって當奥の妓女とあり。又云体が密剣を盗こる虚実をさぐりえんとこいひつるぞと思ひぬ。おや潔さろう落る涙をおさえ君くちち下總国へいろうのひとのち。少ちびもまひつんの足弱ちふ君早舟どのとふ側女をとくへのひそれろうあくねる強勢生来足君不意の横死あってのち。仲又君言きうさを。のまふふどのふうく怨恨さるぐふ口説どひも。兼引ざるを憤つとがきけるや高手ふるふまづりあげ。指二本まで切おろ。涙とく危くえ

へるが。あろうく言体門平両人酒ふ酔てねふれる男をうぐひおふ

どのくいやくめとれるどき。足袋の格ろうおろやう。あもおとろう逃さんとまる奥を門平ふ又とどめらと。言きろう君の怒ろう。只一刀ふきろう殺きんぞあろうさるれが所怪のぐくくちるしと。

ひろふも既ふ足袋ときふわ。会仏しつく門平が云体君ふいふを

ゆへ。君いまあヤセをゆふけひ。佩刀を徹もゆ益くりれ岩

戸川へ連ゆて。まづゆふけやさんと妾を有ふひれろげ。花ぐで

く彼川ふいろう水中ふ沉もやぞ。伝ろひりん袴の裏丁ふまぐ

ろれ行況へういろう暁頃ふろち帰ろ。ぐくへとい西戸ふ賣已

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

さるねるふは言ふ体君ゆゑいつくんと水底ゆきつかうとしひ已のれ
金をゆんと。然するひふるさぐひるーとそひるきゆめ。されゆ白ゆ神
を身ゆやるひ髪をさぐれて幽霊のるぐるゆ似セ。言ふるうぎくの
種仲をさーのぐれ。宝剣の威徒ゆて通るる夏もるのゆぐと同
夏やーぶたるーて天八代のうちうう。短刀をれれ出ーてきう
つけしいれゆきーく彼蛇形丸の宝剣るんといひるゆ助ゆ
おぐうれ我るーゆ身いまやるれ人とありひ居るゆぐいてを
朽葉ゆね関ゆいさるん。ゆ身ゲ仲今の死をとげるし。雪平
房州ゆて少るるを是日ーて只管善提を弔ひーゲ。當所

ゆあるを語るるぐ。ゆも実とゆるひよりと飲びゆるんざうう。あや飛
るるねていひるゆ。されゆアおやーをあう。妾国戸のゆゆけう。国てを
後引あうれ。憂艱難を為まぐしゲ。石斗當所ゆ来う。此徳角主
とるるゆ君ゆ出国のおとるれゲ。知るるゆまーれど。兄君の側
女るるー。早舟さるゆ似るうとゆ物るゆ。恵ゆその人の在ゲぐ。ゆるじ
妓女とるんゆい。早舟さるゆ住るゆーと。此主の側ゆつれるひるれ
いるゲゆと。国戸ゆとるゆのぐ若此家ゆ賣りるさぐゆ舌とう
るて命とるんといひるるゆえ。此家の妓女ゆるうりるーね。徳角
主ゆも。るーうるれいるゲ者の上をるうまいるも。今ゆ姉妹の因

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

とゝ。白玉と名もてびくゝ。日外言ふ君ゐ此家の門首ゐ
てゝ。あひゝもしぶ。ゐ良をゝけて送れ。形姿のゝ
ゝゆえ。あくて目も止めゝ。幸と今宵幽霊ゐいでゝ言
体君の仏中をさぐ。ゝとゝもなくゝゝ。徳角又
助六ゐ。白玉ねーの故郷。ゝ里とゆんつゐ。ゐ流
も遠ゝねゝゆゝ。人をゝゝゐ。彼地ゐ
ゐ住ゝゝ。ゐもゝゐ。ゝゝ。ゝ月日を
ゝ。ゝ不ゝ君をゝ。ゐを求ゝ名を問へ。助
六君といひゝ。ゝ日頃白ゝねーの物ゝゐ。

方ゝゝと仏をゝ。ゝゐゝゝ。不ゐゐ。
ゝも。ゐゝゐ。ゝゝと。助六又ゝ。ゐ体先年
仏をゝけ。ゝゐ。ゝゐ。ゝゝ。彼女のゝをゝ。ゐの
橘ゐゝゝとゐ。鬼ゐ角ゐ。ゐ二人ゐ計ゝ。ゐ。宝のゐ
くへもゝゝゐ。ゝゐ。ゝゝ。ゐ。ゐ
一伍一什と物ゝ。宝をゝゝゐ。ゐ平ゐも
ゝ。ゐゝ。ゐ取ゝ。計来を定ゝ。

あげゝゝゝ

作　柳亭種彦

畫　僊遊祇川

文化五戊辰正月吉日

版元　大傳馬町三町目　本郷三町目　復本喜兵衛
　　越前屋長右衛門

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

208
4
698

葛飾北斎画
阿波の鳴門 全五冊

僊遊洞桃川画
奴の小丸後傳 中本二冊

近世怪談 霜夜星 葛飾北斎画 全部五冊
魏國旅行奇異物語
存之部稗史作家辰乃
彩板西求西洲
[illegible]

来己春新刻

總角物語後編 安陪仲麿入唐記

浄瑠璃 かなぞうし 袷帷衣 黄本 [illegible]

西國順礼女歌詩 説経異説 山荘太郎

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698
ガラス使用

208
4
698

柳亭著
東叢堂梓
桃川画

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用

国立国会図書館　総角物語 2編 208-698

ガラス使用